

12 伝統工芸「上野焼」

江戸時代の初め頃に、朝鮮半島から渡来した工人によって日本各地で陶磁器生産が盛んになり、福智町内の上野で始まったのが上野焼です。当時の大名たちの間で流行した茶を嗜む器として陶器の上野焼は重宝されましたが、明治時代に衰退してしまいました。

明治34年頃から、かつての窯元家系などの人々が努力して再興し、現在の上野焼となり、国の伝統的工芸品に選ばれています。



土灰釉天目形茶碗

土灰釉が中性炎焼成で朽葉色に窯変し、見込みにも灰が降る。高台径は口径に対して広く、削り出し高台の置付も広く、高台内の削りは浅い。

口径 11cm / 高 6.8cm / 釜の口窯



藁灰釉平皿 五客

先人陶工の卓越技法の発露がもたらす敵しいまでの造形美。しっとりとした重厚な藁灰釉。この小皿一枚が上野の全てを物語る。風格ある五客。

口径 15cm / 高 5.6cm / 釜の口窯